

課題研究 異学年交流会 要旨 チェック表

～最低限の水準のための～

分野（ ）（ ）班

1. 見在目チェック

必須事項系	チェック	禁止事項系	チェック
タイトル中央揃え		箇条書き・不要な改行は禁止	
分野, 班, メンバー全員の氏名		長すぎる文は禁止 (3行超えたら注意)	
英文アブストラクト (次回から)		「思う」「感じる」などの曖昧表現は禁止	
キーワード		一人称+主格 (私は・私たちは) は避ける※	
本文の各段落は一字あけて始める。		話し言葉は禁止	
図表番号			
グラフの軸, 軸の値の単位			
参考文献			

※ 「私は (私たちは)」 → 「本研究では」, 「今回の計画では」

2. 「はじめに」の内容チェック

<例>	書くべきこと (要 下線)	チェック
<p><例></p> <p>①A 県が実施する放射性物質の環境調査(常時監視)によると, ②大気と土壌は全地点, 水質と底質はほぼすべての地点で環境基準を達成している ③)。また, ④全地点調査の年間平均値は, 常時監視が開始された 2010 年度から概ね改善傾向で推移している。⑤この改善傾向が一時的なものなのか, 今後継続するものなのかはわからないが継続することが望まれる。⑥改善傾向の特徴をもう少し詳しく調べ, 今後どのように推移して行くかを検討できないだろうか。</p> <p>本研究では, ⑦放射性物質の汚染の由来を推定できる XXX 法^{2),3)}を用いることで, 調査媒体(大気, 河川水質, 河川底質)ごとに全調査地点における年間平均値の濃度推移の特徴を解析することを計画している。⑧調査媒体および発生源ごとに今後の推移を予測が可能となり, ⑨環境 調査・保全計画に役立てることにつながるものと考えられる。</p>	① 出典 ^{補1}	
	② 参考文献に書かれていた内容(根拠) ^{補1}	
	③ 文献情報 ^{補2}	
	④ 他の文献の内容(根拠) ^{補1}	
	⑤ ①や④に対する自分たちの考え(論拠)	
	⑥ 調査課題(主張) 注意 疑問形で記す	
	⑦ 手法	
	⑧ 手法から想定される見通し	
	⑨ 計画の目的ではなく研究全体の最終目的 ^{補3}	

<補足>

補1) 先行研究の情報については以下のように規定する。

ア 「他者の先行研究の情報3つ以上」(本事例では紙幅の都合上, ①と④の2つのみ)

イ 「他者先行研究の情報2つ以上, 先輩達が明らかにしてきたこと1つ」

イの例) A 県が実施する放射性物質の環境調査(常時監視)によると, 大気と土壌は全地点, 水質と底質はほぼすべての地点で環境基準を達成している。本研究は昨年度までに, ……ということを明らかにしてきた。

補2) 文献情報の書き方は次のどちらか

上付き文字で付記する 達成している¹⁾。

()で付記する 達成している(大阪府, 2020年)。

その上で, 出典の情報を参考文献の項に書く。

補3) 最後に書く必要はなく, 文章の出だしに書いても良い。

3. 「研究計画」の内容チェック

<例1：調査型>	書くべきこと (要 下線)	チェック
<p>①<u>全国の精神科医を対象に200名規模のアンケート調査</u>によって情報を得る。その目的は、②<u>医師たちの「うつ」の増加原因に関する認識</u>、<u>新しい「うつ」概念の有効性に対する認識</u>、<u>投薬治療以外の治療法の実施実態</u>、<u>製薬企業と精神医療の関係性に対する意識</u>、<u>マスメディアにおける「うつ」に関する情報の有効性と限界への認識</u>などを明らかにするものとする。③<u>アンケートの設問は6月に10名程度の精神科医にヒアリングを行い、7月までに決定する</u>。④<u>これら医療者の認識が、「うつ」の増加について論じている既存の専門家言説とどのように関連しているのかを考察する</u>。</p>	<p>①対象と調査方法</p> <p>②調査項目</p> <p>③具体的な手法と予定 アンケートの場合は設問、フィールドワークの場合は場所と日時など。未定の場合は期限。</p> <p>④結果の検討方針</p> <p>「佐藤(2018), 第91回日本社会学会大会 研究報告要旨」に、計画書風になるようアレンジを加えた。</p>	

<例2：実験型（未知の現象の発見や実験手法の新規開発など）>	書くべきこと (要 下線)	チェック
<p>先述の通り、①<u>本研究では上空からの捕食者に対する魚類の反応パターンについて、調査することを目的とする</u>。②<u>観察する対象として、ミナミメダカ <i>Pryzias Latipes</i> (以下、メダカ) をとり上げる</u>。③<u>ダツ目メダカ科メダカ属に属する体長4cm程の淡水魚であり、水面近くくに生息し、ネコ、カラスやカワセミ、サギなどに捕食されることが知られている</u>。また、10匹1000円弱で入手できるほか、水槽での飼育がたやすい。</p> <p>④<u>10mmの格子模様の紙の上に、ガラス製の透明な水槽を置き、物体の座標を決められるようにしておく</u>。この水槽にメダカ1尾を放し、捕食者に見立てた直径15cmの円盤を水平にメダカの頭上を横切らせる。水面からの高さは、実験をしながらメダカの反応を見て決める。頭上を横切ったときメダカの移動を水槽の真上から動画で撮影し、⑤<u>円盤の移動方向とメダカの移動方向、そしてそれらの速さについて、解析を行う</u>。⑥<u>これを30回ほど繰り返して、有意なデータになれば、考察を行う</u>。そうでなければ、観察する方向を水平方向に変え、それでも有意なデータが出ない場合は観察対象を変えるなどの手立てを講じる。</p>	<p>①目的（はじめに書いたことを端的に再掲）</p> <p>②実験対象</p> <p>③なぜその対象を選んだのか</p> <p>④操作</p> <p>⑤入手するデータ 本例のように、 ア 操作の際に実験者が変更・決定する実験条件（独立変数：本例では円盤の動き） イ それによって変化が期待される着眼点（従属変数：本例ではメダカの動き） の二者を明らかにすること</p> <p>⑥ 反復回数とうまくいかなかったときの手立て。</p>	

<例3：開発型（現存するものを改良する場合）>	書くべきこと (要 下線)	チェック
<p>①<u>JIS法（COD-Mn法）のCOD測定手順では、加熱時間は30分、加熱温度は常時80℃以上と決められている</u>。②<u>この方法だと加熱中に今回扱う有機化合物ではその一部が酸化剤とは無関係に熱で分解されてしまい、正確な値を測定することができない可能性がある</u>。これを踏まえて、以下のような方法で実験を行う。</p> <p>まず、試料100mLに6mol/L硫酸10mL、硝酸銀溶液5mL、5×10^{-3} mol/L過マンガン酸カリウム溶液10mLを加える。次に、③<u>「沸騰水浴中で30分間加熱」という条件を、触媒として硫酸マンガン(II)水溶液を2mL添加後、加熱温度、加熱時間についてそれぞれ変化させて加熱する</u>。実際に実験を行いながら変更することは視野に入れながらも、とりあえず計画している具体的な温度と時間を表1に示す。加熱終了後、12.5×10^{-3} mol/Lシュウ酸ナトリウム溶液10mLを加える。その後、液温50~60℃を保ちつつ5×10^{-3} mol/L過マンガン酸カリウムで滴定を行う。</p> <p>④<u>従来の方法との差異を測定するために、同一濃度のXX溶液、YY溶液を調製し、従来法とのCOD値の比較を行う</u>。</p>	<p>① 従来の手法（根拠）</p> <p>② それに対する問題点や改善すべき内容の指摘（論拠）</p> <p>③ どの条件をどのように変化させるのか ※ できる限り数値を示す</p> <p>④ 従来との差異をどのようにとるのか。</p> <p>注意 SI単位と数値の間は半角スペース、単位記号は半角アルファベット。</p>	

4. 「参考文献」のチェック

(1). 引用ルール

自分の考えた「答え」の「根拠」を書くうえで重要になるのが**引用**である。引用をして情報の出所を示すことで、その情報が信頼できるものだとすることをアピールする。

① 直接引用 「 」を使う方法 →引用箇所が短い場合に使う。

①石黒②(2008)は、日本語の文章で接続詞が使われる頻度は「日本人学生は三～四割、留学生は二、三割」(P.196)と述べている。私はこの見解に疑問を抱く。

注意：下線は説明のために特別につけたもので、実際には書かない。

「 」で抜き出す場合は、引用した文章と一字一句変えてはならない。

このように、①筆者名と②参照した本の発行年、③その記載のあるページの番号を記入する。

② 間接引用 要約して引用する方法 →引用箇所が長い場合に使う。

④山田⑤(1992)は、果樹栽培が行われた理由を、平地が乏しいというF市の自然状況によるものである^(a)と述べている。これに対して、新井(1998)は、F市の漁業者の約半数が果樹栽培に転業した^(b)ことを指摘している。これらの研究成果から、私はF市のケースを次のように判断する。

このように、④筆者名と⑤参照した本の発行年を記入。波線部のように「～と述べている」のような表現を使って、自分の意見や文章ではないことを明確する。

◇ 文字数を増やすために引用しただけ、なんとなく引用しただけ……で終わらないこと。引用したあとには必ず、それを踏まえた自分の考えを書かなければならない。

◇ 引用した文章をさも自分が書いた文章のようにコピー&ペーストするのは**犯罪である**。

(2). 参考文献と引用文献の示し方

論文の最後には、必ず参考文献（引用文献）を明記する。

① 書籍 → 著者・編者（刊行年）『書籍のタイトル』出版社

渡辺知明（2016）『文章添削の教科書』芸術新聞社

刊行年には（ ），書籍のタイトルには『 』を使う。

② Web サイト → Web ページの作成者「Web ページのタイトル」〈URL〉（アクセスした日付）

財務省「財務省について」〈http://www.mof.go.jp/about_mof/introduction/index.html〉（2012/10/08 アクセス）

作成者がわからない場合は、作成者を省いても構わない。

Web サイトの場合、削除されたり移動したりするので、最終的にアクセスした日付は必須。ネットで調べた文献は日付入りでプリントアウトし、ファイリングしておくことが望ましい。

③ 論文 → 著者・編者（刊行年）「論文のタイトル」雑誌名、巻数・号数、論文のページ

中野由美子（1974）教育社会学研究，29（0），146-160

社会科学系や文学系では論文のタイトルを付すことがある。

中野由美子（1974）「階層と言語—教育社会学における言語研究の位置づけ—」教育社会学研究，29（0），146-160